

第1学年通信(第2号)

平成30年6月6日発行
福岡県立久留米高等学校
校長：木本 和宏
第1学年主任：中尾 朋浩

『夢を叶えたいから』

1年6組担任： 彌永 朋美

2013年「世界の果ての通学路」という映画がありました。登場人物は4人の子供たちと家族です。1人目のジャクソンは毎日妹を連れて片道15kmを象やキリンがいるサバンナを小走りで通う。サバンナでは毎年子供が象の犠牲になる。そのため両親は毎朝欠かさずお祈りをする。彼の夢はパイロットです。2人目のカルロスと妹は片道18kmのアンデス山脈を馬で学校に通う。天候の変わりやすい山を通学できるのは馬のお陰です。3人目のザヒラは片道22kmを友人3人と歩き通う。4人目のサミュエルは足に障害があり歩行不能です。そのため、二人の弟がサミュエルを車椅子に乗せてひっぱっていく。片道4kmの道のりを1時間半かけて通います。何故ここまで苦労して彼らは学校に通うのでしょうか。彼らにとって教育とは「将来を切り開くためのパスポート」で、そのパスポートを手に入れることでそれぞれの「夢を叶えたい」から、誰から言われた訳でなく、自分で選んでそれぞれにとっての通学路を通っているのです。久高生の皆さんにもそれぞれの通学路がありますよね。これから3年間通っていくことになります。悩み事や課題で眠れなかった日の朝や、中間考査の結果が思い通りにならなかったり学校生活で何かしら上手くいかないことがあった日の夕方は暗い気持ちで通学路を通う時もあるでしょう。しかし、どんな時も登山の時のように皆で手と手をとりながら声を掛け合い、互いに支えあい通い続けていけばその先にはたくさんさんの夢や希望が広がっています。パスポートを手にするべく、1年生一丸となって歩いていきましょう。期待しています！追伸、決して映画の宣伝ではありません。次は体育祭頑張ってください。

< 進路実現に向けて >

1年6組 副担任 岸田 光久

もう学校には、慣れましたか？ 高校に入学して第1回目の定期試験の1学期中間考査もありました。結果はどうでしたでしょうか？ 高校は留年という制度があります。ダブることなくスムーズに進学していきましょう。

ところでみなさん、小さな頃からの夢を大事に持っていますか？ 大人になる過程ですでに、現実的に変わってしまったという人、いや、まだ夢実現のために頑張っているという人、それぞれでしょうね。そこでもう一度思い返してみてもいいですか？

今、想っているその夢は、本当にあなたのなりたい姿なののでしょうか？ その夢は、実現可能ですか？ また、実現するためには、高校3年生の3月には、どうなりたいですか。そうやって卒業するためには3年生ではどう過ごしたらいいのでしょうか？

では、2年生ではどうなっているのが望ましい姿でしょうか？ 1年生の2学期終了時点では？ 1年生の1学期終了時点では？ そうすると今、どのように考え、行動したらいいのでしょうか？ 1つの考え方として、逆算してみるのはどうでしょうか？ 3年後にこうなっていたい。ならば2年後はこうありたい。1年後はこうだ。半年後は、3か月後は……。

夢に向かって突き進む・新しい夢に向かって・など新しい考えが浮かぶかもしれません。人はジャンプするとき、より高く飛ぶために膝を曲げて力を蓄えようとします。この3年間はその時期だと思いませんか。しっかり悩んで相談して考えて、夢実現・進路実現のために努力し、大きく羽ばたいてほしいと思います。

より高く、より遠く、より大きく夢実現・進路実現のために頑張ってください。負けるな！ 久高生。頑張れ！ 久高生。

【 宿泊研修感想文 】

1年2組13番 鶴 直人

私はこの「自立と協働を学ぶ体験活動」を通じて、「変わる大切さ」を学びました。

この三日間、スケジュールがきっちり決められていました。食事の時間や入浴の時間、起床、消灯などです。もし、少しでも時間に遅れてしまうとほかの生徒に迷惑をかけてしまいます。それを防ぐために私たちは5分前行動を心がけました。すると、2、3日目には決められた集合時間の10分前には全ての生徒が集合することができました。

私のルーム班では、初日に消灯時間を過ぎても話していたために、注意を受けてしまいました。しかし、その注意を受けたことに反省をして、2日目には消灯時間を自分たちで確認して就寝することができました。

これら二つの出来事から、私は一度の失敗に対して何がいけなかったのか、何をすればよかったのかと考え、次の自分を変える大切さを学びました。

これからの学校生活でも、失敗することがあっても次の行動へとつなげていきたいです。他にも校長先生との会話から学んだことも頭に残しておきたいです。

1年5組31番 田中 愛梨

私は、今回の体験活動を通じて、「自ら行動する力」を学ぶことができました。一日目の集団行動や校歌では、良いものを作り上げようと一生懸命に声を出したり、自分の意見を伝えたりしている仲間の姿を見て、自分も全力で取り組むことができました。二日目の登山では、頂上から帰る前にごみ拾いをしている仲間の姿を見つけて、私も一緒にごみ拾いを行いました。「来たときよりも美しく」という言葉の通り、自ら進んでごみを拾ってきれいにしようという仲間の行動力から、周りを見て行動することの大切さを学ぶことができ、自分自身への成長にもつながりました。私には、まだできていないこともたくさんあるのだということも、この三日間で感じました。持続する力をつけるためには、注意されたことに対して疑問を持つことが大切だときいて、これからはひとつひとつの行動の意味をしっかり理解したうえで行動に移し、自分をもっと成長させていこうと思いました。